

来週の市場とレート予想

	4/16 (月)	4/17 (火)	4/18 (水)	4/19 (木)	4/20 (金)
無担保O/N	△0.085% ~ 0.001%				
銀行券	+ 700	ト ン	△ 1,000	△ 2,000	△ 2,000
財政他	△ 20,700	+ 4,000	+ 6,000	△ 18,000	ト ン
資金需給	△ 20,000	+ 4,000	+ 5,000	△ 20,000	△ 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行・償還(2年) 国債発行(30年)			国債発行(5年)	国庫短期証券発行・償還(1年)
オペ期日	国債補充供給 + 1,100 共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 200				被災地支援 △ 1,100
オベスタート	ETF買入 + 100 共通担保(全店) + 1,500	国債買入 + 8,400 短国買入 + 2,500 CP等買入 + 2,500			
(日本)	日銀雨宮副総裁、 Fin Techコンファレンスであいさつ		貿易統計 (3月、17年度分、財務省)		消費者物価指数 (3月、17年度平均、総務省) 第3次産業活動指数 (2月、経産省)
(海外)	米 アトランタ連銀総裁、講演	日米首脳会談(18日まで) IMF、世界経済見通し(WEO) 米 鉱工業生産(3月) 米 サンフランシスコ連銀総裁、講演 (マドリッド) 米 クオールズFRB副議長 下院金融委員会で証言 米 アトランタ連銀総裁、講演	米 地区連銀経済報告 (ベージュブック) 米 ニューヨーク連銀総裁、講演 米 クオールズFRB副議長、講演 欧 ユーロ圏CPI(3月、改定値)	米 クオールズFRB副議長、講演 米 クリーブランド連銀総裁、講演 米 ブレイナードFRB理事、講演	IMF・世銀の春季総会 (ワシントン、22日まで) G20財務相・中央銀行総裁会議 (ワシントン) 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (4月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.120

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初377兆6,800億円から始まった。その後は国庫短期証券・国債買入オペや、年金定時払いを主因に増加し、387兆4,000億円で越えた。
無担保コールON物は、週末にかけ徐々に調達意欲が高まる展開となった。同加重平均金利は週初△0.058%から始まり、その後は△0.055%～△0.047%のレンジで推移した。積み期最終日かつ3日積みである13日には、△0.044%まで上昇した。
ターム物は1W～2W物で△0.055%～△0.030%、1M物で△0.040%～△0.030%での出合が散見された。
12日、日銀は4月の地域経済報告(さくらレポート)で、2地域(四国、九州・沖縄)の景気情勢判断を前回(2018年、1月)から引き上げた一方、1地域(北海道)では公共投資が減少に転じていることを主因に、前回から引き下げた。
来週の主な予定は、国内では日銀雨宮副総裁のFin Techコンファレンスでのあいさつ(16日)、総務省による消費者物価指数(3月分および2017年度平均)の公表(20日)などがあり、海外では日米首脳会談(17日～18日)、G20財務省・中央銀行総裁会議(20日)、IMF・世銀の春季総会(20日～22日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜C P＞

今週の入札発行総額は約6,000億円で、週間償還総額の約2,100億円から大幅増加した。先週に引き続き、電気機器や輸送用機器を始め一般事業法人の復活発行案件が見られた。週末の発行市場残高は、14兆7,000億円程度になった模様。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、マイナス圏内の出合い。12日に、CP等買入れオペが予定通り2,500億円でオファー(4/17スタート)された。ディーラーの在庫が積み上がっていないこともあり、応札額は前回比減少し足切レートは△0.013%と低下した。
来週の償還総額は、約1,900億円となっている。先週同様、一般事業法人の発行再開から、発行超となり活況が予想される。発行レートは、ディーラーや投資家の運用ニーズが根強く、引き続きマイナス～0%近辺の出合いであろう。

＜TDB＞

12日に行われた国庫短期証券3M第751回債の入札は、最高落札レート△0.1625%(前回債△0.1303%)、平均落札レート△0.1685%(同△0.1355%)と前回入札からマイナス幅を拡大。
セカンダリー市場は需給がやや引き締まり、△0.183%の出合が見られた。
来週は18日に1Y、19日に3Mの入札が予定されている。

＜レポ＞

足許GCは週初△0.14%～△0.15%から始まり、以降週央にかけては△0.18%～△0.20%近辺までレートが低下した。短国3Mの発行日である16日受け渡しではS/Nで△0.11%～△0.12%に上昇。週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされ、再度△0.17%～△0.18%まで低下し越えた。SC取引では5年135回債のbidが多く、週初△0.40%台前半から半ばの出合い。11日の国債買入れオペ後週末にかけて△0.50%台後半～△0.60%台前半の取引が続いた。他2年385・386回債、5年134・135回債、10年337・338・339・340・342・343・346・347・348・349・350回債、20年162・163・164回債、30年57・58回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。